

特集

回転いすの輸入



令和4年12月15日
東京税関

- ★2021年は輸入数量、金額ともに過去最大！
- ★2022年1-10月はコロナ禍前(2019年)よりも高水準を維持！
- ★中国からの輸入が全体の約8割を占める！
- ★東京港が輸入数量、金額ともに全国シェアトップ！

はじめに

オフィスチェア、学習いすなど、会社員や学生など多くの方々が毎日お世話になっている回転いす。様々な体格の人に対応できるよう高さなどを調節できたり、長時間座り続けても疲れにくい構造であったりと工夫が凝らされているものがたくさんあります。

近年は、在宅勤務やオンラインゲーム用に、自宅で使用するオフィスチェアやゲーミングチェアを購入した方も多いのではないのでしょうか。

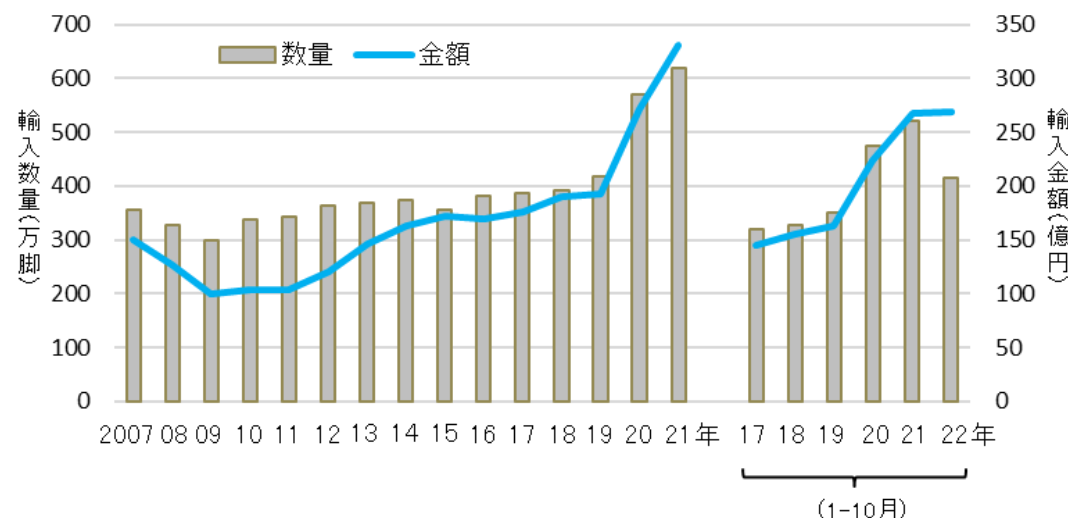
今回の特集では、回転いすの輸入についてご紹介します。

年別輸入動向

右の図1は、最近の約15年間における回転いすの年別輸入動向です。2010年から2019年までは概ね緩やかな増加傾向を示しており、業界によると、リーマンショック(2008年)からの景気回復と、首都圏を中心とする新築ビルの建設ラッシュに伴う需要増が背景にあるそうです。

2020年には輸入数量及び金額が前年比約1.4倍に急増し、さらに2021年は輸入数量が前年比約1.1倍、金額が同約1.2倍に伸びました。2021年の輸入数量は619万8千脚、金額が330億5千万円となり、統計が確認できる1988年以降で過去最大を記録しています。2020年以降の大きな伸びについて業界では、コロナ禍による在宅勤務のため家庭向けの需要が急増し

(図1)回転いすの年別輸入動向



たことが影響しているとみています。例えば、ダイニングチェアで長時間仕事をした結果、腰痛を訴える人が多く、その改善のためにオフィス用の回転いすを購入する人が増えたといったようなことがあるようです。

2022年1-10月については、家庭向け需要が一巡したことで数量は前年同期より減少しているものの、コロナ禍前の2019年と比べても高い水準を維持しています。数量に対し金額はほぼ横ばいであり、輸入単価の上昇が見られます。この点について業界の見解では、原材料の値上げのほか、高機能でデザイン性に優れた高価格帯商品の増加が要因だろうとのことです。

月別輸入動向

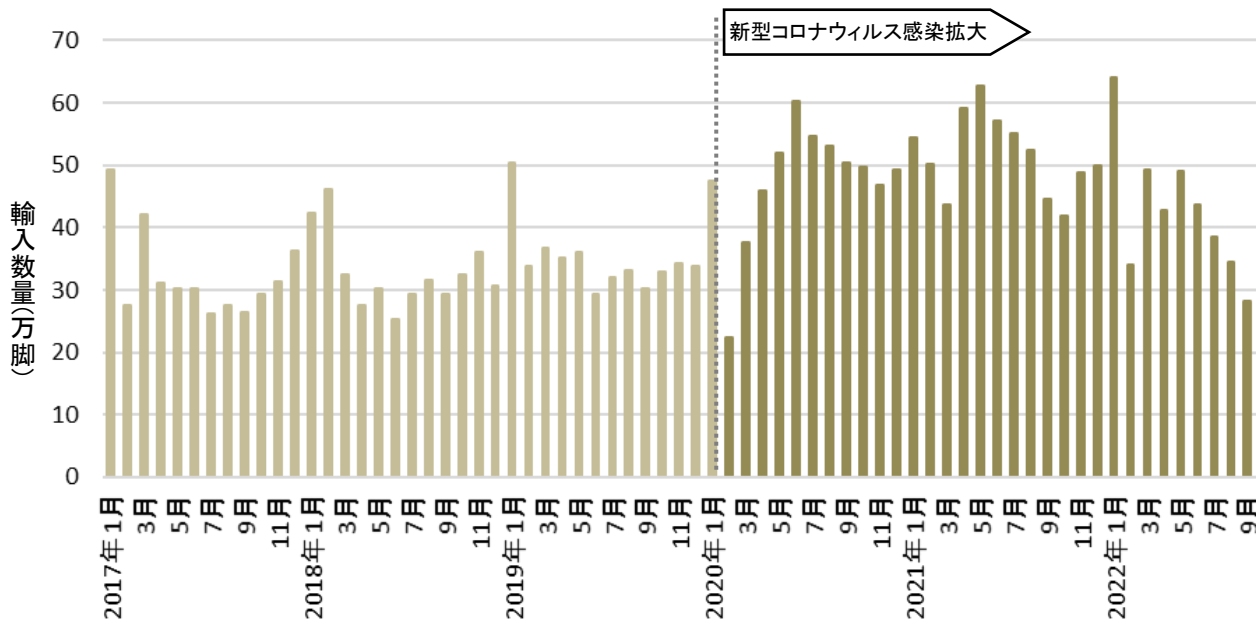
右図2は、回転いすの月別輸入数量の推移です。2019年までは、毎年1月頃の輸入数量が多いことが分かります。

業界によると、オフィス家具の最需要期である3月は、通常月の2～3倍の売上有るため、1月頃はその在庫確保のため輸入数量が増加するとのこと。

対して、2020年以降は、1月頃に限らず輸入数量の多い月が増えています。これは、コロナ禍での在宅勤務による家庭向け需要が急増し、時期を問わず輸入が増加したものであるとのこと。

2022年1月には、輸入数量が64万1千脚となり、確認できる1988年以降で過去最大となっています。

(図2)回転いすの月別輸入数量の推移

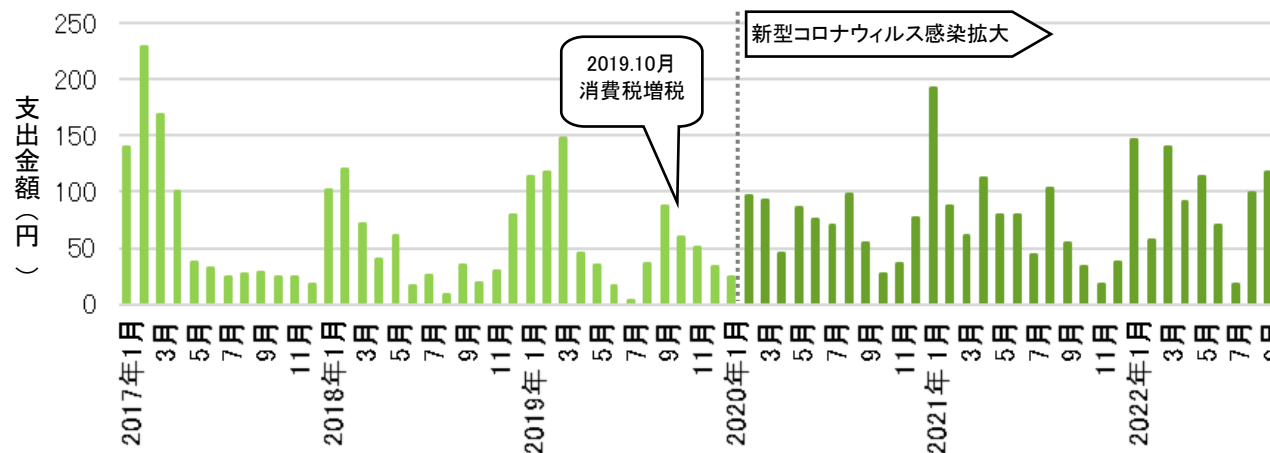


また、右図3は、総務省家計調査から、2人以上の世帯における「書斎・学習用机・椅子」の月別支出金額の推移をグラフにしたものです。2019年10月の消費税増税前の駆け込み需要と思われる増加を除き、2019年までは、新学期に向けた1～3月頃の支出金額が多く、それ以外の月は比較的少なくなっており、回転いすの輸入数量と似た傾向となっています。

2020年以降も、1～3月頃の支出金額が比較的多めであることは変わりませんが、それ以外の月との差がなくなってきている印象です。2022年は特に支出金額が多い月が続いていることがわかります。

このグラフからも、コロナ禍において、家庭向け需要が増加傾向であることが読み取れます。

(図3)総務省家計調査「書斎・学習用机・椅子」月別支出推移



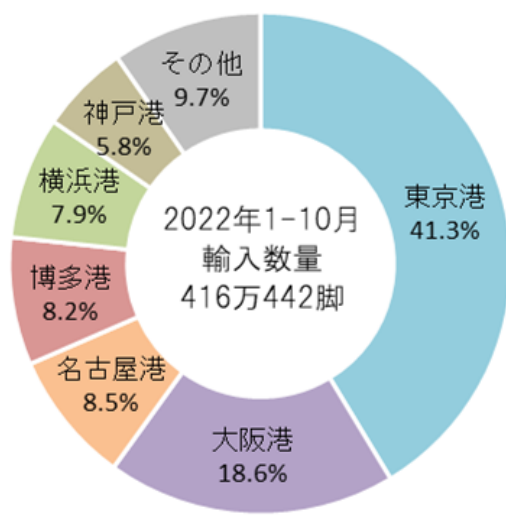
※総務省家計調査(二人以上の世帯)をもとに作成。

港別輸入動向

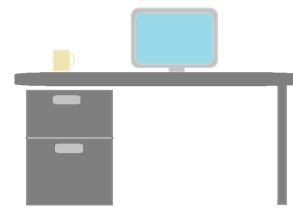
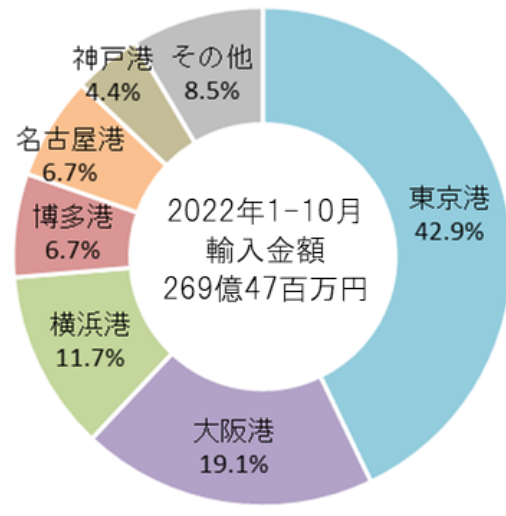
下図4及び5を見ると、2022年1-10月の港別輸入実績は、輸入数量及び金額ともに1位は東京港、2位は大阪港となっており、これら2港で全体の約6割を占めています。

1位の東京港からの輸入が数量・金額ともに4割を超えていることに関して、業界は、オフィス家具の需要の6割程度が首都圏にあり、輸送保管を考慮すると東京港近辺の物流拠点を利用している企業が多いためであると分析しています。

(図4) 港別構成比(輸入数量)



(図5) 港別構成比(輸入金額)

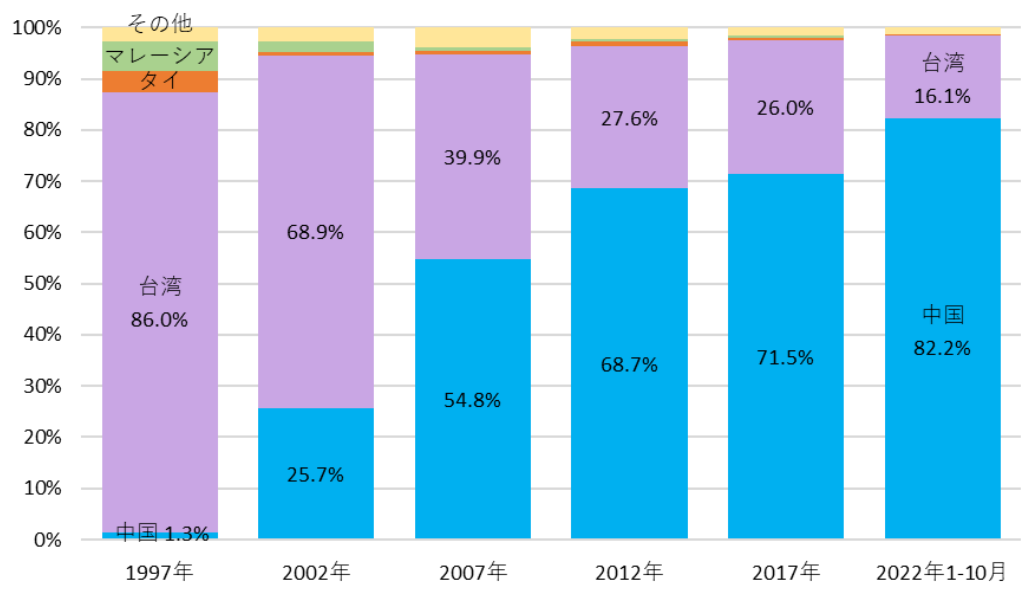


国(地域)別輸入動向

下図6は、国(地域)別輸入数量シェアの推移です。1997年は8割以上を台湾が占めていましたが、徐々に中国のシェアが拡大していき、2022年1-10月には中国が8割以上のシェアとなっています。

業界に聞いたところ、以前は台湾がアジアの事務用回転いすの生産拠点として、部材、完成品ともに重要な地位を占めていましたが、2000年以降、生産コストの削減や労働力確保のために、台湾メーカーの中国進出が続き、中国から世界へ輸出する体制に移行していったそうです。さらに、中国の市場自体が大きくなり、現在では中国が世界の供給基地になっているそうです。

(図6) 国(地域)別シェア(輸入数量)



おわりに

回転いすの市場の今後の見通しについて業界によると、いすの需要は座る人の数に連動するため、労働人口が減少していった場合、数量ベースでの需要は長期的には減少していくと考えられるとのことです。他方で、働く場所がオフィスだけでなく多様化していくなか、テレワーク用の需要が伸びているほか、働く環境の向上のため体への負担の少ない高機能ないすの需要が高まっており、単価は上昇傾向にあるそうです。このため当面、市場規模は大きく変動しないのではないかと見ています。

【資料編】

年別輸入数量・金額の推移

年月	輸入数量(単位:脚)		輸入金額(単位:百万円)	
		前年比		前年比
2007年	3,565,062	104.1%	14,962	109.6%
2008年	3,280,009	92.0%	12,710	85.0%
2009年	2,991,025	91.2%	9,935	78.2%
2010年	3,383,872	113.1%	10,415	104.8%
2011年	3,429,968	101.4%	10,397	99.8%
2012年	3,630,437	105.8%	12,018	115.6%
2013年	3,690,235	101.6%	14,641	121.8%
2014年	3,750,628	101.6%	16,284	111.2%
2015年	3,548,518	94.6%	17,237	105.9%
2016年	3,817,951	107.6%	16,987	98.5%
2017年	3,876,836	101.5%	17,626	103.8%
2018年	3,932,076	101.4%	18,955	107.5%
2019年	4,179,167	106.3%	19,324	101.9%
2020年	5,692,402	136.2%	27,080	140.1%
2021年	6,197,909	108.9%	33,052	122.1%
2017年 1-10月	3,200,266	101.0%	14,564	102.4%
2018年 1-10月	3,265,851	102.0%	15,489	106.3%
2019年 1-10月	3,498,591	107.1%	16,311	105.3%
2020年 1-10月	4,733,810	135.3%	22,398	137.3%
2021年 1-10月	5,210,031	110.1%	26,801	119.7%
2022年 1-10月	4,160,442	79.9%	26,947	100.5%

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

港別輸入数量・金額(2022年1-10月)

港	輸入数量 (単位:脚)	輸入金額 (単位:百万円)
東京港	1,720,079	11,555
大阪港	773,988	5,153
名古屋港	354,295	1,804
博多港	342,257	1,808
横浜港	327,983	3,145
神戸港	239,635	1,179
その他	402,205	2,303
計	4,160,442	26,947

国(地域)別輸入数量の推移

(単位:脚)

	1997年	2002年	2007年	2012年	2017年	2022年1-10月
中国	28,268	806,254	1,953,349	2,494,653	2,772,997	3,421,837
台湾	1,803,710	2,165,823	1,423,308	1,002,354	1,006,491	669,345
タイ	86,593	18,918	23,725	37,947	22,347	9,659
マレーシア	118,772	65,809	30,093	17,547	15,674	8,765
その他	58,828	85,592	134,587	77,936	59,327	50,836
計	2,096,171	3,142,396	3,565,062	3,630,437	3,876,836	4,160,442

本特集の「回転いす」は、以下の輸入統計品目番号に属する品目です。

・第9401.31号(回転腰掛け(高さを調節することができるものに限る。)のうち木製のもの)

・第9401.39号(回転腰掛け(高さを調節することができるものに限る。)のうちその他のもの)

※2021年までは両品目とも第9401.30号(回転腰掛け(高さを調節することができるものに限る。))に分類されていました。

※2022年10月分は9桁速報値です。

取材協力:一般社団法人日本オフィス家具協会

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
<http://www.customs.go.jp/tokyo/>